



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 ③新型コロナ：治療と予防

京都府南丹保健所長 時田 和彦

新型コロナに感染した場合、流行当初の 2020 年春頃は、感染者のほぼ全員が指定医療機関へ入院となりました。2020 年 12 月現在、感染者のうち無症状者や軽症者の多くは、自宅療養またはホテル隔離となっています。感染者で入院が必要なのは、①65 歳以上の高齢者や呼吸器などに基礎疾患がある人で、重症化するリスクのある人、②入院が必要と医師が判断した人、③まん延防止のため入院が必要な人、となっています。

治療薬については、レムデシビル(C 型肝炎の薬)やデキサメタゾン(ステロイドとよばれる、各種炎症を抑える薬)など、いくつかの薬が有効とされています。

予防については、風邪症状のない人も含めた全員がマスクを着用し、手洗いの励行、3 つの密(密閉、密集、密接)を避ける、などが必要です。部屋の換気は大切で、部屋の対角線にある 2 つの窓を開けると効果的です。対角線上に窓がない時には、窓とドア、ドアと換気扇など、部屋の状況に合わせてます。寒い季節ですが、こまめな換気を続けてください。近い将来、有効なワクチンが開発され、多くの日本国民が接種できることが望まれます。

新型コロナ感染症は、感染した人の半数近くが、無症状者から感染していたことが分かりました。ですから風邪症状のある人だけが感染対策をしても不十分で、風邪症状のない人も含めた全員が、しっかり対策を取ることが大切です。皆でこのコロナ禍を乗り切りましょう。

次回から、風邪やインフルエンザについて書きます。